

観光資源としての水族館の発展

松崎優斗

要旨

本研究では、水族館が観光資源として発展していくために必要なことを明らかにした。水族館は将来的に観光客の確保が大きな問題になると考えられる。そこで新たなスタイルの展示や、幅広い年齢層から入館者を集める必要がある。そのためには、水族館の4つの役割のなかでも、<教育・環境教育>の役割を充実させることが有効的であるという仮説を考えた。

仮説を証明していくにあたり、水族館の現状を分析し、入館者の動向を調査した。また、インターネットでアンケート調査を実施し、世間の水族館に対する印象を調査した。

水族館の現状からは、<教育・環境教育>に関わる展示はどの水族館にもあり、入館料にも大きな影響を与えないことが明らかになった。近年は、最先端の技術を駆使して様々な形の学ぶ展示を取り入れている水族館が多いことが分かった。新たに取り組むこととして<教育・環境教育>の展示内容は実現しやすいものであると考えられる。入館者の動向からは、閑散期に学生や高齢者を呼び込むことが重要であることが分かった。博物館の方が高齢者に人気であることなどから、学ぶことのできる展示内容は必要であると考えられる。アンケート調査からは<教育・環境教育>の取り組みは需要に対して印象に残りにくいことや、同行者によって水族館を訪れる目的に差が生まれることが分かった。つまり<教育・環境教育>の役割が様々な期待に応え、多くの人たちのニーズを満たすことに繋がると考えられる。

これらのことから、<教育・環境教育>の役割を充実させることで、幅広い年齢層の入館者や、様々な目的を持った入館者を新たに取り込み、発展に繋げることができると結論づけることができた。